



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 25 年度 第 7 号
平成 25 年 1 月 1 日 (金) 発行
さいたま市立宮原中学校

メールアドレス

miyahara-j@saitama-city.ed.jp

ホームページアドレス

<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「神様」 「仏様」 そして 「勝利の女神様」

校長 ^{やま} ^{した} ^{せい} ^じ
山 下 誠 二

朝夕もめっきり涼しくなり、大変しのぎやすい季節となりました。10月18日に市民会館おおみやで行われました合唱コンクールでは、各学年、素晴らしい歌声を響かせてくれました。何がよかったかという、すべてのクラスが成績発表まで、自分のクラスが賞を取れるのではないかという緊張感が持てたことだと思います。そして、多くの保護者や地域の方に聴いていただきました。ありがとうございます。また、24日に開催されました、さいたま市中学校駅伝競走大会では、男子が2連覇、女子は15位と健闘しました。3年生を中心に宮原中チームが一体となった結果だと考えます。11月9日に熊谷で県大会が開催されますが、関東大会出場権(4位)を目指してもうひと頑張りしてほしいと思います。

さて、私の年代以上であればよく知られている元巨人軍の川上哲治監督が10月28日に亡くなりました。93歳でした。川上監督は、私と同じ熊本県人吉市の出身です。巨人軍に入団した時の契約金は300円、月給は110円(当時の大卒の給料は約50円)で、300円もあれば、人吉市では家が一軒建つくらの金額だったそうです。そして月給の半分は、毎月実家に仕送りをされていたそうです。選手時代には、「打つ時にボールが止まって見えた」の名文句で「打撃の神様」とも言われました。そして巨人軍の監督として昭和40年からプロ野球9連覇という偉業を成し遂げられ、名実ともに素晴らしい野球人生だったのではないかと思います。ちなみに、川上監督の弟さんは、以前、人吉市役所に勤務されており、私の父の先輩でした。竹とんぼの名人で、竹とんぼの滞空時間日本一に輝いた方です。平成8年に私が文部省(現在の文部科学省)の海外研修でスペインに行ったとき、30本の竹トンボを作っていたとき、スペインの子どもたちが大変喜んで遊んでいた姿を思い出します。

また、昨日、嬉しいニュースが飛び込んできました。アメリカの大リーグ、ワールドシリーズでレッドソックスの上原浩治投手が胴上げ投手となり、6年ぶり8度目の世界一に輝きました。この上原投手が、巨人軍に所属していた際、ある球場の芝の上に紙屑が落ちていて、その紙屑を黙って拾い、ユニフォームのポケットに入れた姿をある記者が見ていたそうです。その行いに記者が問いかけたところ、「球場には神様がいて、神聖な場所だから」と答えたそうです。こんな行いがさらっとできる、だから勝利の女神も上原投手に傾いたのかもしれない。

宮原中学校でも、11月は県の新人体育大会、県駅伝競走大会、吹奏楽部の県アンサンブルコンテスト等、目白押しです。今まで一生懸命に汗して努力を重ねている生徒たちです。どうか神様、仏様、そんな宮原中の子どもたちにちょっとだけ勝利の女神を傾けていただけないでしょうか。